

## 大手プレス用金型製造企業の技術的な競争

愛媛大学 法文学部 総合政策学科 准教授

藤川 健 (Takeshi Fujikawa)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL(089)927-9257

fujikawa.takeshi.mk@ehime-u.ac.jp

プロフィール

2007年に同志社大学大学院 商学研究科 博士後期課程単位取得 満期退学後、同志社大学商学部講師を経て、2011年より愛媛大学 法文学部 総合政策学科 専任講師、2014年より現職(商学博士)。専門は、中小企業論、企業論。主著は、「金型産業の技術競争力の再考」日本中小企業学会編『アジア大の分業構造と中小企業 日本中小企業学会論集③』(同友館、2014年)(2014年度日本中小企業学会若手研究奨励賞受賞)など。

## プレス用金型製造企業の売上額上位 20 社

第2回のテーマは、「大手プレス用金型製造企業の技術的な競争」である。第1回の「金型を製造する企業の類型化」では、多様な金型を製造する企業を、「事業形態」、「製造する型種」、「成形加工する部品サイズ」の3つで分類し、売上額上位20社の特徴を指摘した。ただし、このような特徴は、製造する型種によって大きく異なることが予想される。したがって、第2回では、プレス用金型を製造する企業に的を絞り、売上額上位企業に対して行った聞き取り調査の結果から、技術的な競争の在り様を把握していくことにする。

第1回で行った類型化に依拠し、プレス用金型製造企業の売上額上位20社を提示したものが表である。上位企業の傾向を捕捉すれば次のとおりになる。第1の分類である「事業形態」では、金型以外にも事業を営む金型兼業企業が20社中の15社(75.0%)を占めており、非常に多いことがわかる。とりわけ、従業に金型を活用した「金属プレス製品製造」(3社)や金型とセットで用いられる治工具などの「機械工具製造」を行っている企業(3社)が複数存在し、金型と密接に関連した事業を営んでいることが読み取れる。また、第2の分類である「製造する型種」からは、20社中の7社(35.0%)がプレス以外の型種も製造しており、そのすべてがプラスチック用金型であった。

さらに、主要な販売先を見れば、国内外の自動車関連の取引先が9社(45.0%)もあり、特定の業種に集中していることが明らかになった。そして、本社所在地を把握すれば、「大阪府」が4社(20.0%)、「愛知県」が4社(20.0%)、「静岡県」が3社(15.0%)

と続いている。このような立地の兆候は、ダイハツ(大阪府)、トヨタ(愛知県)、スズキ(静岡県)などの自動車製造企業の本社所在地の位置と関係している可能性がある。

それらを踏まえ、売上額上位のプレス用金型製造企業は、自動車関連の主要取引先を有し、金型に関連する事業を営む金型兼業企業が多いと言えよう。以下では、売上額の上位に位置し、主要な販売先が集中する自動車関連の中でも、部品サイズが明確である、サイドアウター、ドア、フロアカーペット向け金型を主力とする3社の企業を取り上げることとする。また、事例では、極端な取引先業種から導かれる結論の偏りを避けるため、電子機器部品のコネクター向け金型に注力する1社も併せて検討する。表から調査対象企業を確認すれば、第5位(サイドアウター)、第8位(ドア)、第12位(コネクター)、第14位(フロアカーペット)の大手プレス用金型製造企業である。

## 大手プレス用金型製造企業の概要

まず、各社の概要を叙述することとする。売上額第5位のA社は、従業員数が217名、資本金額が9,800万円、売上額が41億5,400万円(2012年)の静岡県に立地する金型専業企業である。同社は、プレス用金型の製造・販売のみを行う。したがって、売上額に占めるプレス用金型の割合は100%である。ただし、同社は一部建機メーカーからの受注も行っている。主な顧客である国内の自動車メーカーからは、サイドアウターやドアなどの外板関係、フロアカーペットやルーフなどの内板関係の金型を受注している。それに伴い、同社が保有するプレス機は、500tから2,500tまで幅広い構成になっている。